

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 人工衛星観測報告はがき発見

人工衛星打ち上げが初めて成功したのは昭和32年(1957年)10月4日、ソ連が打ち上げたスプートニク1号であった。ソ連は同年11月3日にはスプートニク2号を打ち上げた。アメリカはソ連に遅れること4カ月、1958年2月1日エクスプローラー1号を打ち上げ、以後、熾烈な競争を続けた。人工衛星の軌道を求めるために地上からの観測が組織的に行われ、日本での観測のとりまとめを東京天文台が行っていた。なんとその観測報告の未使用の「はがき」(写真1)が出てきたのである。このはがきは全国の観測ネットワークに配布され、観測結果を東京天文台に知らせるためのもので、宛名は「東京都三鷹市大沢東京天文台 天文時部保時観測研究課 人工衛星係行」となっている。人工衛星の観測を取りまとめていたのが天文時部というのも奇妙であるが、その窓口というか担当者は虎尾正久先生であった。人工衛星の最初の成功当時の天文時部長は台長の宮地政司氏であった。このはがきの発見者は元天文時部職員で今は天文情報センターにいる松田浩氏で、こんなものが出てきましたよ、アーカイブに対象でしようと思ってくれたのである。

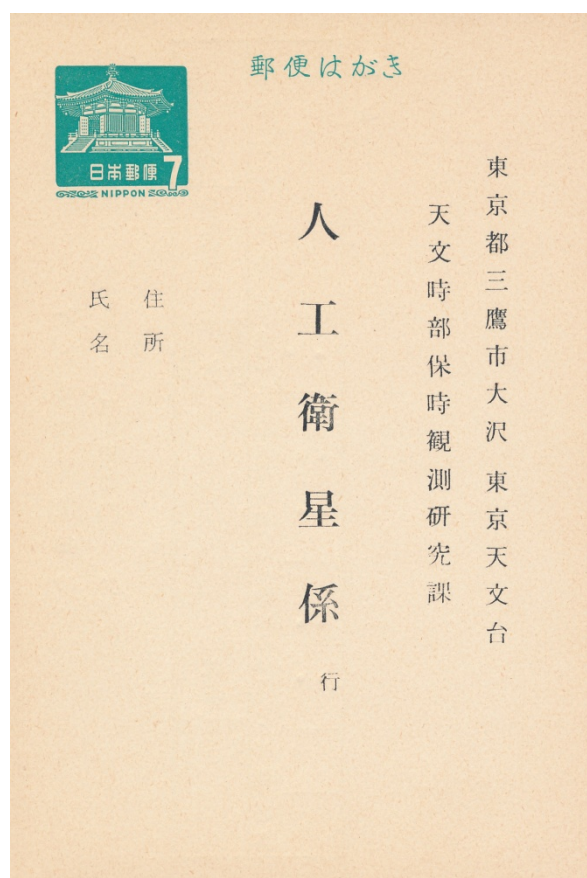


写真1 発見されたはがき

観測報告のはがきではないので消印がないが、はがきの郵送料が 7 円の時代である。はがきの 7 円時代は、昭和 41 年 (1966 年) 7 月 1 日～昭和 47 年 (1972 年) 1 月 31 日まで 5 年半であった。したがってこのはがきは昭和 41 年以降のものである。昭和 41 年と言えば東京天文台に人工天体運動部が設置され、人工衛星国内計算施設に電子計算機が導入された時代である。その年以降の人工衛星観測報告が人工天体運動部でなく天文時部宛というのも興味深い。人工天体運動部では、1) 人工衛星の軌道変化から地球の重力ポテンシャル (その時間的变化をふくむ)、地球の Love の数を求める研究、2) 月、衛星の軌道研究、3) 摂動関数の展開を、計算機を利用して行う研究、4) 天体電磁流体力学の研究が行われた。

はがきの裏面 (写真 2) が報告事項である。

人工衛星観測報告

SAO Non SAO L.P.

OBS : No.

衛 星		Residuals	TIME		Mag.		元 期	器 械
			R. A.	DECL.	Max.	Min.		
班番号	日付(UT)	時 刻 (UT)	赤経又は方位(A)		赤緯又は高度(A)			
		h m s	• •	• •	• •	• •		
		• • •	• •	• •	• •	• •		

備 考

写真 2 はがきの裏面

今となっては、非常に珍しいものが出てきたという程度のものであるが、東京天文台に届いたこれ等の報告はがきの行方も知りたいものである。